

地形と土地利用

— 有度丘陵東部、清水平野南部について —

飯 野 美 沙 江

私は、土地を生活の舞台としているが、こうした土地の状態、さらに自然的人文的環境は種々様々の地域性を持っている。この地域の性格を把握するには色々な分野が考えられるが、地域性を理解するに最も基本的な地形を成因的に分類しさらにこのような土地を人間がどのように利用しているか、地理的環境の総合した形として現われている土地利用について調べることは今までの知識をまとめる為に又、地理的見方を養うの一歩として重要である。

調査地域は東海地方の中央に位置し、地形的にも、土地利用からも、東海地方の縮図であり、調査地域の性格のみならず、東海地方全体の把握であり特に土地利用では日本の将来が問われる様な気がする。

研究に当って、地形分類は写真、フィールドワークを主に土地利用では環境諸条件から地域の性格を総合的に把握するよう努めた。

〔地形分類〕

本地域の地形は背後の山地と明瞭な境をなし、溺れ谷を埋積したかのように見える三角形の低湿な平野、その南部に逆傾斜している有度丘陵、駿河湾沿いの海岸地形とから成る。

有度丘陵はドーム状隆起を受け、東部と南部が削られ、急峻なもので、背後の山地とは性格を異にする。頂上と西北麓に茶園に利用されている平坦面がある。西北麓にはNE E-S WW方向の差が見られ、崖の上では茶褐色土壌で頂上の平坦面と同一の上位台地面でかつては一続きの面であったが、その後の浸蝕により、分離し、リスタ地形を示している。崖下の下位台地面は黒色土壌を特色とする。これが丘陵内の河川の肩状地が隆起したが、他の河川的作用はまだ解らない。台地面以外に平坦面が散点しているが、これは浸蝕による平坦面である。谷は緩やかな隆起運動と谷頭浸蝕(wind gap)とにより傾斜も緩く巾広く耕地になっている。丘陵周辺には肩状地、特に南部では急崖をなす為崖錐状の肩状地で中には立派な天井川をなす。これらは河川的作用により形成され河成堆積面と分類する。この他に南部に崩壊地、東部南部に海蝕崖が発達している。

肩状地の延長上や巴川沿いには比高0.8~1.5mの自然堤防が発達しその

南は泥炭を含む湿地となっている。西高村近、巴川沿いには旧河川が認められ旧巴川は現在貯木場になり村直に製材工場が発達している。

東部には海岸線に平行の浜堤が形成されている。内部は自然形が不明瞭であるが、海岸線の移動が伺われる。海岸沿いには砂浜があり、気候と労働度下により高度に利用されている。

〔土地利用〕

土地は種々の目的に何って利用されているが中でも農業は重要な位置を占めている。

農家構造についてみると耕地狭く兼業の多い多様な農業経営である。耕地率は高く特に傾斜地、砂浜の利用が着しく従って樹木栽培、蔬菜栽培による商品作物が農業の中心で現金収入率は高いが非支符価格農産物が主である為農家経済は不安定である。

主要作物は自給用米、台地型茶園、加工用蜜柑、秋寒期出荷の梅、半促成、暖作による蔬菜、暖作麦、さらに養鶏などがとり入れられている。これらの作物は単一に農家にとり入れられているのではなく複合した形でとり入れられて始めて成立しているのであり、この意味で本地域は多目的な経営であると云える。これは農家が安定性を求めているとも考えられるが、一方単一栽培を可能にする同一条件の土地がないことも一因になっている。従ってその地域に応じた複合の仕方によりそれぞれ特色ある地域型を作り上げている。

農業について工業は本地域に於いては見逃すことはできない。青木の工業は相隣る静岡の塚田とは異り重化学工業である。このような工業が立地したのは原料輸入に便利なことによるものであり、在来の特産物加工も輸出に便利な交通的位置に立地したものである。

土地利用では農業と工業としか限れることができなかったが、これらから解るように本地域の土地利用は商業的、都市的土地利用であるということが出来る。